



Little Players News

No. 181 2013年 4月

新学期スタートですね。環境が変わると慣れるまで大変ですが、春の日差しのように明るい毎日を過ごしましょう。

今年の発表会は9月8日(日)を予定しています。

紹介コーナー



♪ 今月もフィンランドの偉大な作曲家シベリウス(1865~1957)の作品についてお話したいと思います。

樹の組曲

ピアニスト館野 泉氏によって、「樹の組曲」と名付けられたこの作品は、1914年に作曲されました。「**ピヒラヤの花咲く時**」: ピヒラヤとは日本でいう“ななかまど”です。フィンランドでは6月頃に白い房のような花を咲かせるそうです。「**孤独な松の木**」: 地にしっかり根を張り、力強く堂々と枝を伸ばしていく感じが伝わってきます。「**はこやなぎ**」: ポプラに似ている“はこやなぎ”は、かなり高い木に生育し、葉は丸く柔らかく、風が吹くとさわさわと独特な音をたてるのだそうです。「**白樺**」: 北欧の森を豊かにしてくれる“白樺”は、嬉々として生きる歓にあふれた若い娘にたとえられるそうです。「**樅の木**」: “樅の木”は、北欧では永遠の生命の象徴です。そして、死も永遠です。アイノラ山荘にあるシベリウスの家のピアノは壁と向かいあうのですが、その壁には絵がかかっていました。若い娘が亡くなり、泣き伏す婦人。その向こうには、うっすらと死神の姿が見えました。館野 泉氏は「樅の木」を演奏する時に、この絵の情景が浮かぶそうです。

フィンランドの民族楽器「カンテレ」

フィンランドの首都ヘルシンキの楽器屋さんガイドさんをお願いして連れて行ってもらいました。館野 泉氏に、「カンテレ」と、みなさんがレッスンで勉強している「スオミ・ピアノ・スクール」の原本を是非、購入するように勧められました。木で有名なフィンランド。民族楽器のカンテレも立派な木を使っていて、一台一台が違います。三角形の板に5本の弦を張った楽器のカンテレは、リコーダーのように、情操教育に適した楽器として、幼稚園や小学校などで音楽教育に組み込まれる事になったそうです。カンテレは両膝の上や机の上に置いて指先でつま弾きます。本格的な演奏会用のカンテレは39弦にもなるそうです。カンテレは船便で送ってもらい、3週間経ってから我が家に到着しました。楽譜の「スオミ・ピアノ・スクール」全4巻は、フィンランドから手荷物として持ち帰りましたが、1冊の重さが日本の翻訳版よりとても重たくて大変でした。

ピティナ・ピアノコンペティションに参加

今年は、教室から代表として菅原 帆乃果さん(小2)と峯村 瑠奈さん(中2)に参加してもらうことになりました。地区予選、本選は札幌で、決勝は東京で開催されます。4つの時代の課題曲より選択して、計4曲の勉強してもらいます。グループレッスンでも演奏してもらいますので、みなさん応援よろしくお願いします!

西川音楽教室

<http://soundwalking.com/>